

資料 4

高松塚周辺地区の再整備方針 記載内容（案）

「S52高松塚周辺地区基本計画・基本設計」で示された主要機能の維持を前提とし、さらにそれら機能を向上させるべく、現状の問題点や公園を取り巻く状況の変化等の課題を踏まえ、再整備を実施する。

基本計画に示された
主要機能

遺跡・文化財の保存

遺跡・文化財の鑑賞

地域景観の保全

集散・休息

眺望・散策

高松塚周辺地区の再整備にあたってのポイント

資料3で提示された当地区の再整備にあたって踏まえるべきポイントを主要機能に沿って整理した。

遺跡・文化財の保存

- ・再整備にあたっては、地区内の遺跡・文化財の保存に支障がないよう十分な配慮が必要である。

遺跡・文化財の鑑賞

- ・飛鳥の主要な観光施設として、鑑賞のあり方や方法等について、高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）設置に向けた取り組みや世界遺産登録等の地域の取り組みとの緊密な連携が求められる。

地域景観の保全

- ・適正な施設規模や配置、建築意匠等について慎重に検討を行う必要がある。
- ・史跡と調和のとれた地域景観を形成するための植生管理が求められる。

集散・休息

- ・「飛鳥周遊のゲートウェイ」として、今後の世界遺産登録等による来訪者の増加や質の変化等への対応、魅力向上の取組が求められる。（外国人旅行客等への対応、駐車台数の確保、歴史・情報案内機能の改善等）
- ・集散・休息の拠点として、人と人の繋がりへの配慮が求められる。（休息や活動スペースの確保等）

眺望・散策

- ・古墳への見通しなど、眺望の確保が求められる。
- ・施設老朽化に対応した来園者の安全性や利便性の確保が求められる。（バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応等）
- ・県道西側エリア～県道東側エリアへの連続性の確保が求められる。（分かり易い動線・案内誘導等）

当地区は県道で東西のエリアに分かれている現状を踏まえて、前ページに挙げたポイントを実現するために、エリアごとの特性を踏まえた、以下の3つの視点に基づき、取組を実施する。

視点① 県道西側において、地域と連携のもと「飛鳥周遊のゲートウェイ」として機能の向上を図る

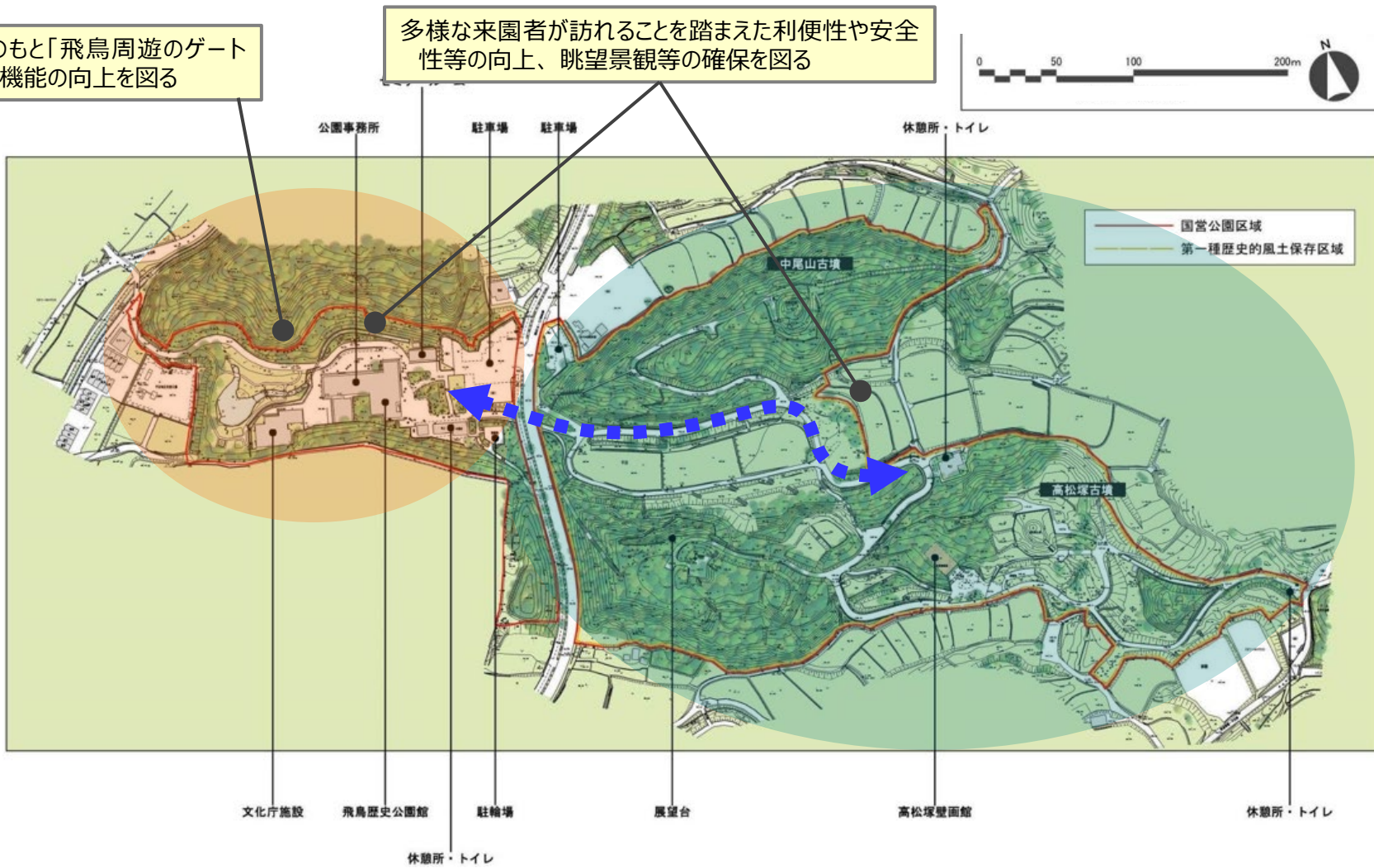
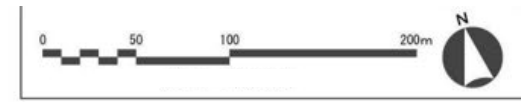
視点② 県道西側・東側において、多様な来園者が訪れることを踏まえた利便性や安全性等の向上、眺望景観等の確保を図る

視点③ 持続可能な管理運営に向けた取組みを推進する

【地区全体イメージ】*背景図は現況の施設配置

地域と連携のもと「飛鳥周遊のゲートウェイ」として機能の向上を図る

多様な来園者が訪れることを踏まえた利便性や安全性等の向上、眺望景観等の確保を図る



視点① 県道西側において、地域と連携のもと「飛鳥周遊のゲートウェイ」として機能向上を図る

【飛鳥周遊のゲートウェイ機能の向上】

- ◆ 施設老朽化に対応した飛鳥歴史公園館の再整備にともない、県道西側エリアにおいて、以下に掲げる飛鳥周遊のゲートウェイ機能の向上を図る。
 - 飛鳥地方及び国営飛鳥歴史公園の案内機能
 - 展示等による飛鳥地方の歴史文化・自然景観等の理解促進機能
 - 来訪者の集散・休息の拠点機能

留意するポイント

- 案内についての最新のデジタル技術や多様性に対応したコンテンツの導入等により、外国人旅行客を含め誰にでも分かり易い案内・展示機能等の充実をハード・ソフト両面において図る。
- 駐車場の再整備により必要な駐車台数の確保に努めるとともに、快適な休息スペースを確保し、集散・休息の拠点としての機能向上を図る。
- 多様な主体からニーズの把握を行い、魅力的な施設とする。

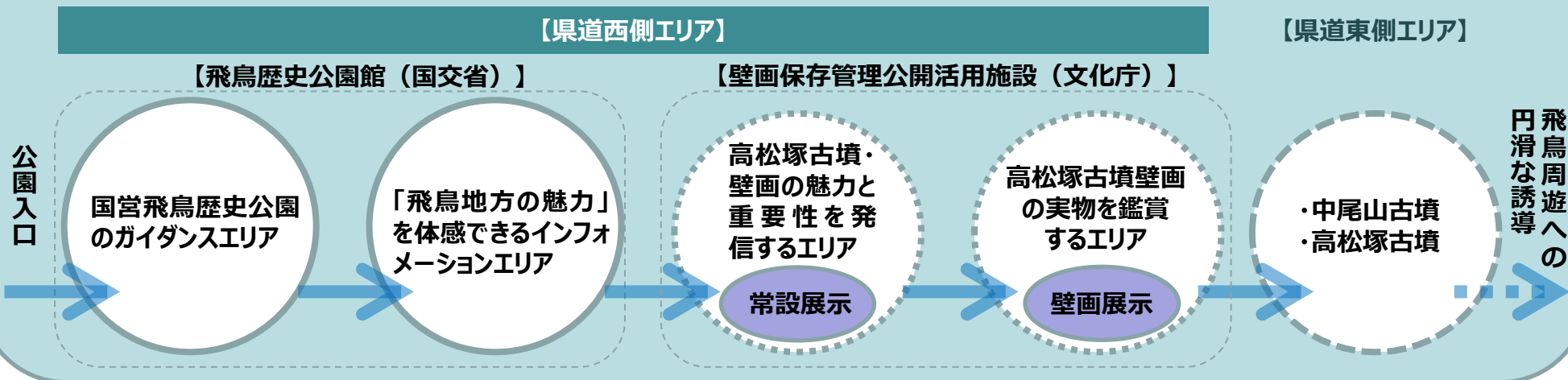
【周辺地域との連携】

- ◆ 県道西側エリアの再整備や遺跡・文化財の保存にあたっては明日香村及び奈良県の取り組みや公共交通機関との連携を考慮するとともに、飛鳥歴史公園館については、周辺施設との役割分担により、展示機能・スペースの有効活用を図る。

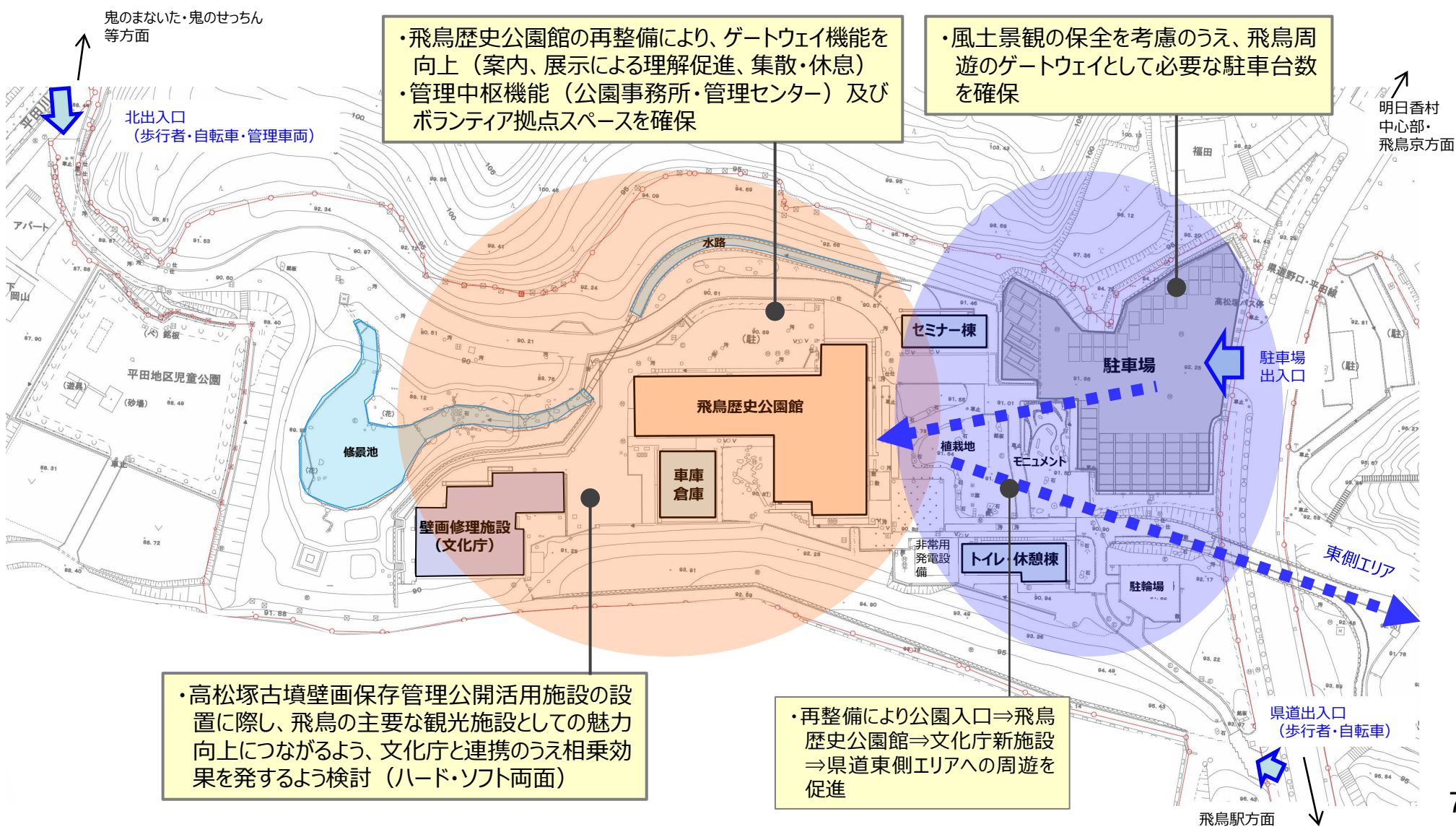
【文化庁との連携】

- ◆ 高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設の設置に際しては、利用者の利便性の確保とともに、飛鳥の主要な観光施設としての魅力向上につながるよう、文化庁と連携のうえ相乗効果を発揮するよう検討を行う。検討にあたっては、県道西側エリア～県道東側エリア～飛鳥周遊へのいざないを促進する展示ストーリーづくりを考慮する。（ハード・ソフト両面）

県道西側エリア～県道東側エリア～飛鳥周遊へいざないを促進する展示ストーリーづくり（例）



【県道西側エリアイメージ】*背景図は現況の施設配置



- ・飛鳥歴史公園館の再整備により、ゲートウェイ機能を向上 (案内、展示による理解促進、集散・休息)
- ・管理中枢機能 (公園事務所・管理センター) 及びボランティア拠点スペースを確保

- ・風土景観の保全を考慮のうえ、飛鳥周遊のゲートウェイとして必要な駐車台数を確保

- ・高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設の設置に際し、飛鳥の主要な観光施設としての魅力向上につながるよう、文化庁と連携のうえ相乗効果を発するよう検討 (ハード・ソフト両面)

- ・再整備により公園入口⇒飛鳥歴史公園館⇒文化庁新施設⇒県道東側エリアへの周遊を促進

視点② 県道西側・東側において、多様な来園者が訪れることを踏まえた 利便性や安全性等の向上、眺望景観等の確保を図る

- ◆ 園路やトイレ等の施設の老朽化等にもなう再整備にあたっては、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮し、国内外の多様な利用者の利便性・安全性確保に努める。
- ◆ 利用者ニーズの高い地区内の案内誘導機能の充実（案内板の改善等^{*}）により、県道西側エリア～県道東側エリアの分かり易い動線の確保等の利用者の利便性向上を図る。
※wi-fiの整備については、地域の取組と連携して検討を行う
- ◆ 施設整備にあたっては、地域景観の保全のために適正な施設規模や配置、建築意匠等について、検討を行う。
- ◆ 経年により繁茂した樹木の除伐や更新等を実施し、飛鳥の眺望や里山の景観の魅力回復、古墳の見通し確保を図る。



バリアフリーに配慮した園路イメージ

視点③ 持続可能な管理運営に向けた取り組みを推進する

- ◆ 再整備にあたっては、公園事務所・管理センタースペースを確保のうえ、管理中枢機能の維持・向上に努める。
（ハード・ソフト両面）
- ◆ ボランティア活動拠点スペースの確保など、既存ボランティアとの連携や新たな参加機会の創出を促す。
- ◆ 案内ガイド等の利用者サービスについては、地域や文化庁の取り組みと連携のうえ導入について検討を行う。
- ◆ 持続可能な公園管理運営に向け、運営維持コストの縮減（施設有料化、民間活力の導入等）に配慮するとともに、適切な雇用の確保による地域経済への貢献を行う。



ボランティアとの連携イメージ

今後の取り組みにあたって留意すべき事項

今後、再整備方針を検討するにあたっては、本委員会で示された以下の事項に留意し、関係機関と協議・調整のもと進めるものとする。

○来園者の想定

・今後、更に海外も含め、多様な来園者が想定される中で、オーバーツーリズムへの対応も含め、関係機関との協議の中で目標や方針を設定し、具体的な施設計画や運営計画に反映する必要がある。

○交通アクセス、移動支援

・地域の取り組みや公共交通機関の動向、地域モビリティ・電動自転車普及の状況等について把握を行いながら、今後、関係機関と役割分担や連携手法等を協議し、具体的な施設計画や動線計画および運営計画に反映する必要がある。

○管理運営のありかた

・当地区におけるガイド等の利用者サービスのあり方については、世界遺産登録やまるごと博物館地域計画の取り組みや文化庁の取り組みとの連携を図りながら、wi-fi設備の普及状況等も踏まえ、今後関係機関と協議し、具体的な展示計画や運営計画に反映する必要がある。

・植栽管理のあり方については、眺望の確保や展示ストーリーに沿った古墳の見せ方等について、今後関係機関と協議し、具体的な植栽管理計画や展示計画に反映する必要がある。

○その他

・低炭素化社会を目指すなかで、飛鳥地域では外国人旅行客の利用促進のためにどのような取組、及びその発信を行うかといった検討も必要である。

・具体の事業計画にあたっては、大型イベント開催に合わせて来訪する外国人観光客を取り込むといったタイムスケジュール戦略についても配慮が必要である。

なお、これらの留意事項は、将来的に他4地区の再整備検討がなされる場合においても適宜参考とする。